

グローションカテーテル (NXT)

挿入手技の手引き

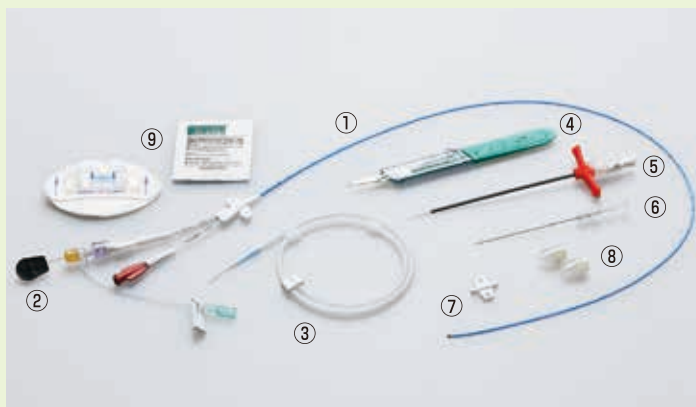
キット内容物

販売名：グローションカテーテル (MSTタイプ)
規 格：4Frシングルルーメン
カタログ番号：7655405



- ①グローションカテーテル
- ②スタイレット
- ③カテーテルコネクタ
- ④ロックスリーブ
- ⑤ガイドワイヤ(0.018インチ)
- ⑥メス(セーフティ機能付き)
- ⑦シース付きマイクロイントロドューサ(4.5Fr)
- ⑧21Gセーフティ穿刺針
- ⑨スーチャウイング
- ⑩インジェクションキャップ
- ⑪スタートロック(PICC) (前処置剤付)

販売名：グローションカテーテル (MSTタイプ)
規 格：5Frデュアルルーメン
カタログ番号：7957505



- ①グローションカテーテル
- ②スタイレット
- ③ガイドワイヤ(0.018インチ)
- ④メス(セーフティ機能付き)
- ⑤シース付きマイクロイントロドューサ(5Fr)
- ⑥21Gセーフティ穿刺針
- ⑦スーチャウイング
- ⑧インジェクションキャップ
- ⑨スタートロック(PICC) (前処置剤付)

別途準備する物品

- ①マキシマルバリアプリコーションに必要な物品
 - ・滅菌手袋
 - ・滅菌穴あきドレープ
 - ・キャップ
 - ・マスク
 - ・滅菌ガウン
- ②血管穿刺用エコー (サイトライト8など)
- ③ニードルガイドキット*
(ニードルガイド、滅菌プローブカバー、滅菌ゼリー
固定用ゴムバンド)
- ④エコーゼリー
- ⑤駆血帯
- ⑥10mLルアーロックシリンジ2本(プライミング用、局所麻酔用)
- ⑦生理食塩液
- ⑧局所麻酔用注射針
- ⑨ドレッシング材
- ⑩メジャー(カテーテル挿入長計測用)

*サイトライト使用の場合

※マイクロイントロドューサなしのBasicタイプ(#7617405、#7927505)、マイクロイントロドューサキット単品(#0668945、#0668950)もあります。
※製品の仕様、形状等は、改良等の理由により、予告なく変更する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

警告、禁忌、禁止を含む使用上の注意等の詳細は添付文書をご参照ください。

1 事前の準備

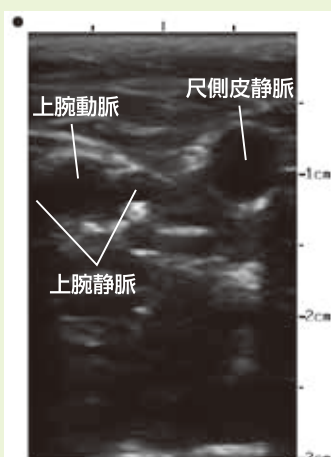
シャワーや石鹸と温湯により挿入部位周辺の皮膚を清潔にしておいてください。

① 挿入部位の選定

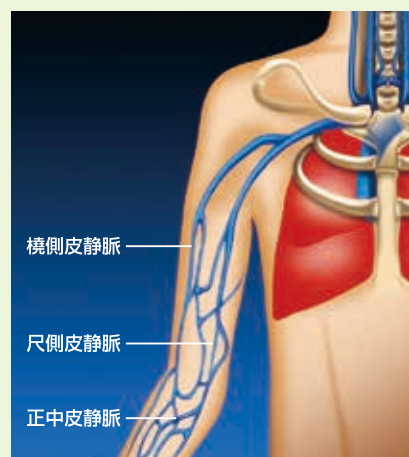
1. 挿入予定部位の中樞側を駆血します。
2. サイトライト8などのエコーを用いて血管を描出し、血管径、血管走行、動静脈の位置関係を確認します。
3. 挿入部位を選定します。上腕の尺側皮静脈が推奨されます。
4. 必要に応じてマーキングを行います。
5. 一旦、駆血帯を外します。



▲サイトライト8



▲サイトライトを用いた血管描出



② カテーテル挿入長の計測

1. 患者の腕を正中線と90度の角度に位置させます。
2. 挿入予定部位から鎖骨の頭部まで、さらにそこから第三肋骨と第四肋骨の間までを測ります。



③ マキシマルバリアプリコーション

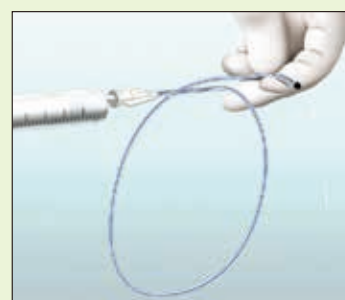
1. 穿刺部を院内のプロトコールに従って消毒します。
2. 滅菌ガウン、滅菌手袋、キャップ、マスクを着用し、できる限り大きい滅菌穴あきドレープを使用します。



④ カテーテルのプライミング

(10mL シリンジ或いはそれより大きいシリンジを使用してください)

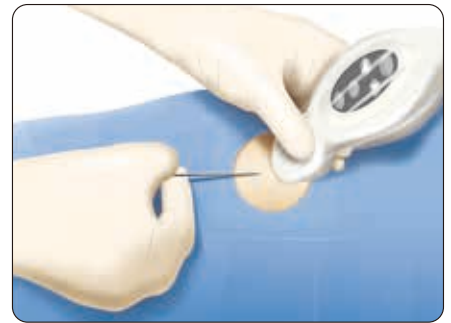
1. 注射用のシリンジをスタイレットのコネクタに取り付けます。
2. カップなどに用意した生理食塩液を吸引して、バルブの内側への開閉を確認します。
3. そのまま、カテーテル内腔のプライミングを行います。
4. 同様に付属のカテーテルコネクタ、マイクロイントロデューサにもプライミングを行います。



2 カテーテルの挿入

① エコーガイド下穿刺

1. エコーの準備を行います。
2. エコープローブに滅菌のプローブカバーをかぶせます。
3. 挿入予定部位の中枢側を駆血します。
4. エコー画面に目標血管を描出し、21G穿刺針を刺入します。
(イラストは短軸アプローチの場合)
5. 駆血帯を外します。



※以下、図中の滅菌穴あきドレープは省略しています。

ニードルガイドキットを用いる場合



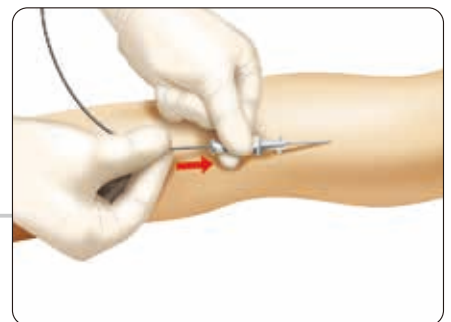
1. ニードルガイドキット*を準備し、目標血管の深さに適したニードルガイドを選択します。
*販売名：サイトライトIV
(ニードルガイドキット)
2. サイトライトのプローブにエコーゼリーを塗布し滅菌プローブカバーを被せた後、ニードルガイドを装着します。
3. カバーを被せたプローブの先端に滅菌ゼリーを塗布した後、21G穿刺針をニードルガイドの溝に沿ってスライドさせながら装着します。
4. エコー画面の中央に目標血管を描出し、ニードルガイドの溝に沿わせて穿刺針を刺入し、駆血帯を外します。

注 ニードルガイドは、カチッと音がするまで押さえて、確実にはめ込んでください。
※スライドさせながら装着しないでください。

② ガイドワイヤの挿入

穿刺針にガイドワイヤをゆっくりと挿入します。ガイドワイヤが動かないように保持しながら、穿刺針をゆっくりと抜去します。抜去後は直ちにハブの下部についたロックカバーを前方にスライドさせて取り外します。

注 ロックカバーを取り外すことで、自動的に針先がガードされる構造になっています。抜去後は直ちに所定の廃棄用コンテナに廃棄してください。



③ 局所麻酔とガイドワイヤ挿入部への小切開（必要に応じて）

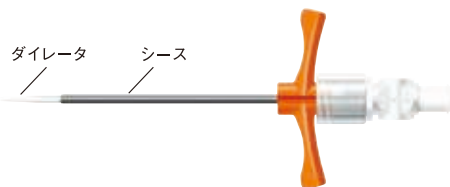
局所麻酔を行い、挿入部へ小切開を行います。

注 メスの使用後に透明カバーの突起を押してスライドさせることで、メス先がガードされる構造になっています。使用後は直ちに所定の廃棄用コンテナに廃棄してください。



④ マイクロイントロデューサの挿入

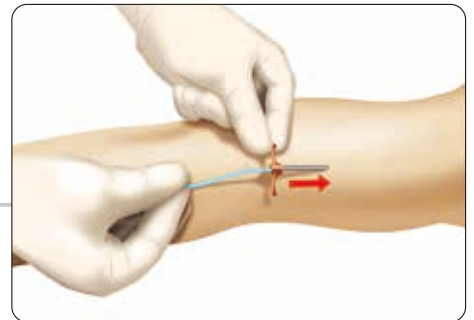
1. ガイドワイヤでしにマイクロイントロデューサを挿入します。
2. 先にダイレータを抜去し、次にガイドワイヤを抜去して、シースのみを残します。



⑤ カテーテルの挿入

1. マイクロイントロデューサのシース内にカテーテルをゆっくりと挿入します。
2. 患者の腕を正中線と90度の角度に位置させてカテーテルを進めます。

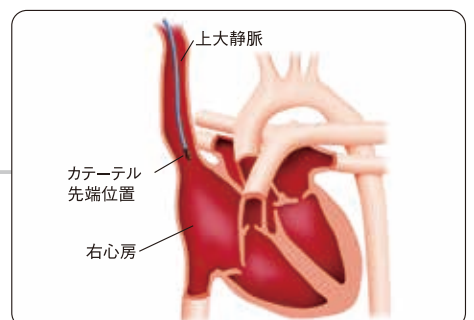
注 患者の顔をカテーテル挿入側に向け、あごを引いて肩にのせるようにすることで、カテーテル先端が頸静脈に進みにくなります。



⑥ X線透視によるカテーテル先端位置の確認

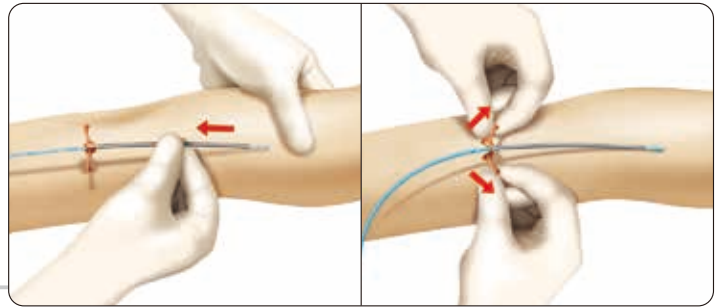
X線透視下でカテーテル先端が適切な位置（上大静脈と右心房の合流部手前）にあることを確認します。

注 カテーテル先端が右心房に留置されないように注意してください。



7 シースの抜去

1. 留置されているマイクロイントロデューサのシースよりも前方の血管を軽く押さえ、挿入したカテーテルを安定させます。
2. シースを挿入血管からゆっくりと引き抜きます。
3. シース上部のTハンドル部を両手で持ってゆっくりと引き裂くことで、シースをカテーテルから取り外します。



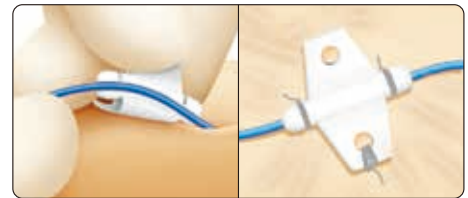
- 注** シースは必ず抜去してから裂いてください。
血管を損傷しないよう、挿入血管から離れた位置で少しずつ裂いてください。

縫合固定 (必要に応じて)

カテーテルの固定は、無縫合固定器具(スタットロック)を用いて行いますが(5参照)、縫合固定を行う必要がある場合は次の手順に従います。

1. スーチャーウイングの羽部分を持ち、カテーテルをウイング内に収納します。
2. ウイングの溝部分に糸をかけ、カテーテルがはずれないようにします。
3. フラッシュを行い締め付けすぎていないことを確認します。
4. ウイングの穴に糸をかけ縫合固定します。

※体表上のカテーテルが長い場合は、スタットロックとスーチャーウイングを併用することもできます(5参照)。



8 スタイレットの抜去

1. カテーテル上の目盛りを見ながら、カテーテル挿入長を調整します。
2. カテーテルが動かないように刺入部の先の血管を軽く押さえ固定した後、スタイレットをゆっくりと抜去します。

▼4Frシングルルーメン



▼5Frデュアルルーメン



- 注** 力を掛けてスタイレットを抜去しないでください。抜去の際に抵抗を感じたり、カテーテルが団子状に縮む場合は、スタイレットの抜去を一旦止めて形状を戻し、カテーテルとスタイレットを一緒に2cmほど引いてみるなどして、再度スタイレットの抜去を試みてください。



警告

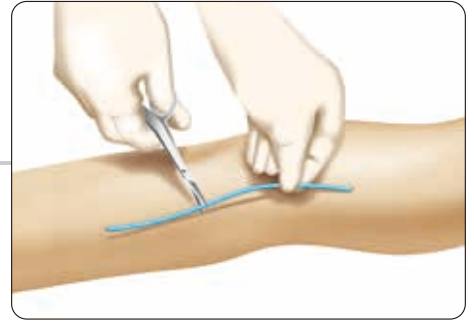
カテーテル内のスタイレットは切断せずに必ず抜去してください。
留置後のカテーテルに残ったスタイレットがカテーテルを穿孔して、本品や臓器の損傷を引き起こすおそれがあります。

3 カテーテルコネクタの取り付け ※4Frシングルルーメン使用の場合のみ

1 カテーテル長の調節

体表上のカテーテルが長い場合、少なくとも4～7cm体外に出るように切断して調節します。

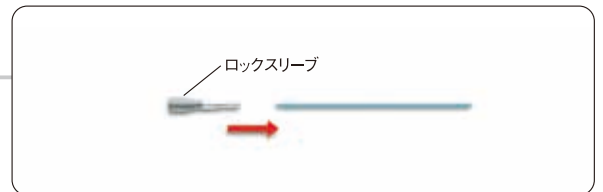
注 長さ調節をしない場合でも必ずカテーテル末端を1cm以上切り詰めてください。



2 ロックスリーブの装着

ロックスリーブをカテーテルに沿わせて進めておきます。

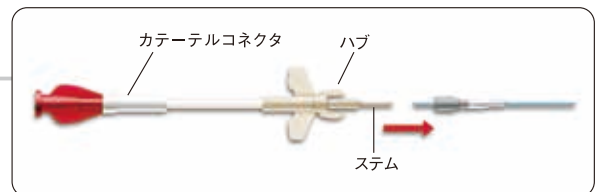
注 ロックスリーブの挿入に抵抗がある場合は、やさしく前後させるか、あるいは回転させながらゆっくりと進めてください。



3 カテーテルコネクタの挿入

カテーテルコネクタのステムをカテーテル断端から挿入します。

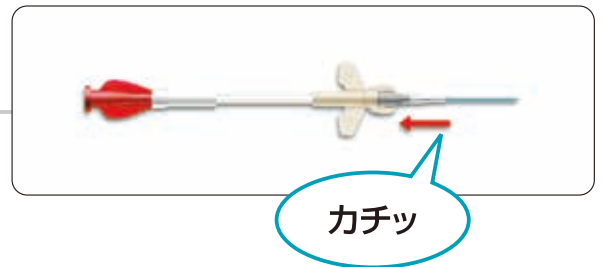
注 カテーテル切断面がステムを完全に覆うまで挿入してください。



4 ロックスリーブとカテーテルコネクタの接続

ロックスリーブをスライドさせ、ねじらないように注意しながらハブの突起部分がかみ合うようにしっかりと接続固定します。

注 カチッという手の感触により、カテーテルコネクタが完全にロックされ正しく接続されたことを確認してください。

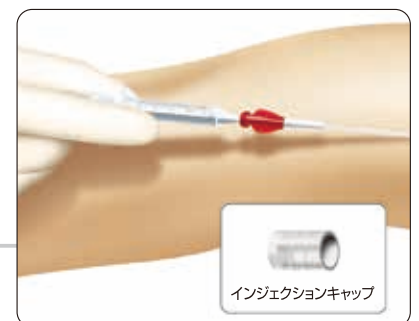


4 カテーテルの確認とライン接続

1 カテーテルの確認

1. 注射用の生理食塩液を10mL充填したルアーロックタイプのシリンジをカテーテル末端に接続します。
2. 吸引して血液の逆流を確認した後、カテーテルルーメンの開存性を維持するためにフラッシュします。

注 必ず10mLシリンジ或いはそれより大きいシリンジを使用してください。(小さなシリンジでは注入圧が高くなり、カテーテル破損の原因となります)



2 ラインとの接続

インジェクションキャップを取り付けるか、あるいは輸液ラインと接続します。

5 スタットロックによる固定

カテーテルを固定する際は、付属の無縫合固定器具(スタットロック)を使用します。

① 前処置剤の塗布

1. 固定する部位の皮膚表面を必要に応じて清拭します。
2. 付属の前処置剤を固定部位に塗布します。
3. 前処置剤が乾くまで、10～15秒待ちます。

② ウイングの収納

カテーテルコネクタのウイングをスタットロックにはめ込んで収納し、カバーを閉めます。

注 矢印(→)が刺入部方向を向くように取り付けてください。



③ スタットロックによる固定

スタットロックの裏紙をはがして皮膚に貼り付けます。

注 カテーテルのウイングをスタットロックにはめ込んで装着してから皮膚に固定してください。



- 付属のスーチャーウイングによる固定も可能です (p6参照)。
- 体表上のカテーテルが長い場合は、付属のスーチャーウイングを使用してカテーテル皮膚刺入部付近を固定することもできます (右イラスト参照)。



④ ドレッシング材の貼付

透明ドレッシング材をカテーテル刺入部およびスタットロックを覆うように貼り付けます。

注 腕を曲げた際にキンクしないように固定してください。

※ドレッシング材と固定方法については、院内のプロトコール、あるいは推奨されるガイドライン等に従ってください。右は固定の推奨例です。



カーブが急にならないようにします。

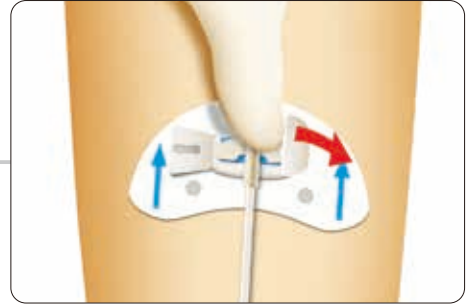


腕の動きに対応できるように少したるませます。

6 スタットロックの取り外し

1 カテーテルの取り出し

1. 透明ドレッシング材をゆっくりと伸展させながら注意深くはがします。
2. スタットロックのカバーを開け、カテーテルを取り出します。



2 スタットロックの取り外し

アルコール綿等を使用して、スタットロックの粘着面を浸潤させながら、ゆっくりはがしていきます。



- 注** 強く引っ張ってはがそうとしないでください。
- 注** 取り付けられたスタットロックは、毎日観察し、少なくとも1週間に一度は新しいものと交換してください。

7 カテーテルの洗浄方法

カテーテルの開存性を維持するために、1週間に一度、あるいは使用後に、以下の各状況においてそれぞれ適切な量の生理食塩水でカテーテル内腔を洗浄(フラッシュ)します。

5mLの生理食塩水で、 洗浄が必要な場合

- 最低7日毎(7日以上処置しない場合)
- TPN溶液を注入した後
- 薬剤を投与した後

10mLの生理食塩水で、 洗浄が必要な場合

- 採血を行った後

20mLの生理食塩水で、 洗浄が必要な場合

- TPN溶液注入直後に採血を行う場合

注 脂肪乳剤を使用した後は、直ちに生理食塩水で洗浄してください。

警告 洗浄(フラッシュ)には必ず容量10mL以上のシリンジを使用してください。10mLよりも小さいシリンジを使用すると過剰な圧がかかり、カテーテルが破損したり、あるいは血管に損傷を与えるおそれがあります。

※カテーテルのケアに関しては、詳しくは「グローションカテーテル (NXT) ケアマニュアル」をご参照ください。

販売名:グローションカテーテル 承認番号:20600BZY00578000 クラス分類:[4]高度管理医療機器 一般的名称:末梢静脈挿入式中心静脈用カテーテルイントロデュサーキット 償還区分:中心静脈カテ・末梢留置・I又はII
販売名:サイトライトB 承認番号:228ADBZX00081000 クラス分類:[2]管理医療機器 一般的名称:汎用超音波画像診断装置
販売名:サイトライトIV(ニードルガイドキット) 承認番号:21700BZY00331000 クラス分類:[2]管理医療機器 特定保守管理医療機器 一般的名称:汎用超音波画像診断装置
販売名:スタットロック(PICC) 届出番号:27B1X00052000007 クラス分類:[1]一般医療機器 一般的名称:カテーテル固定用パッチ

※事前に必ず添付文書を読み、本製品の使用目的、禁忌・禁止、警告、使用上の注意等を守り、使用方法に従って正しくご使用ください。本製品の添付文書は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)の医薬品医療機器情報提供ホームページでも閲覧できます。
※製品の仕様・形状等は、改良等の理由により予告なく変更する場合がございますので、あらかじめご了承ください。
※Bard、Bard、Groshong、グローション、Site~Rite、サイト~ライト、StatLock、スタットロックは、C.R. Bard社の登録商標です。

製造販売業者

BARD

ACCESS SYSTEMS



株式会社 メディコン

本社 大阪市中央区平野町2丁目5-8 ☎06(6203)6541(代)
(平野町センチュリービル9F)
大阪営業所 大阪市中央区平野町2丁目5-8 ☎06(6203)6770(代)
(平野町センチュリービル4F)
東京営業所 東京都台東区上野5丁目6-10 ☎03(5812)3511(代)
(HF上野ビルディング8F)
札幌 ☎011(281)7422 仙台 ☎022(295)6762
名古屋 ☎052(722)4373 広島 ☎082(924)7277
福岡 ☎092(526)6677
<http://www.medicon.co.jp>